



参考例

令和3年12月24日開催 Web 研修

「学校における医療的ケア児を中心とした多職種協働」

指導的な役割を担う
看護師の実践報告



指導的な役割を担う看護師の実践報告

① 学校所属の立場から



令和3年12月24日
鳥取県立皆生養護学校

目次

- I. 主な役割と業務内容
- II. 鳥取県内の特別支援学校について
- III. 実践報告
 - ・実践報告
 - ・事例① ケアルームでの移乗は誰がする？
 - ・事例② 連絡帳とケアノートの一体化への道
 - ・事例③ 体温管理と学習時間の確保への道
 - ・実践報告を通して

I .主な役割と業務内容



2

○主な役割と業務内容

本校のマスコットキャラクターの『ゆかいくん』です。
令和2年12月生徒会で誕生しました!!



ゆかいくん



3

○主な役割と業務内容

■主な役割(校外)

鳥取県特別支援教育推進委員会公立学校
医療的ケア体制整備検討分科会委員
鳥取県医療的ケアコーディネーター

■主な役割(校内)

校内就学支援委員会
学校保健委員会
医療的ケア対策委員会
学校給食・アレルギー対策委員会

4

○主な役割と業務内容

■主な業務内容

- ・医療的ケア児・重症心身障がい児の看護、アセスメント
- ・健康管理、記録、管理、相談
- ・人工呼吸器管理
- ・緊急時対応、緊急時マニュアル作成
- ・医療関係者との連絡・報告・相談、受診同行
- ・鳥取県内公立学校の医療相談
- ・OJT研修(呼吸介助、人工呼吸器シュミレーション)
- ・医療的ケア看護職員の業務調整、相談、指導

5

Ⅱ.鳥取県内の特別支援学校について



頭の3本線は
温泉の『ゆげ』を
イメージしています!



6

鳥取県内の特別支援学校



西部地区
 ⑧県立米子養護学校(知的障がい)
 ⑨鳥取聾学校ひまわり分校(聴覚障がい)
 【幼・小・中学部】
 ⑩皆生養護学校(肢体不自由・病弱)※本校

中部地区
 ⑥倉吉養護学校
 (知的障がい、肢体不自由)
 ⑦琴の浦高等特別支援
 学校(知的障がい)
 【高等部のみ】

③⑤⑥⑩医療的ケア看護職員配置
 ③⑤⑩指導的な役割を担う看護師配置

東部地区
 ①鳥取盲学校(視覚障がい)
 ②鳥取聾学校(聴覚障がい)
 ③鳥取養護学校
 (病弱・肢体不自由)
 ④鳥取大学附属養護学校
 (知的障がい)
 ⑤白兔養護学校(知的障がい)

7



○鳥取県立皆生養護学校に在籍する医療的ケア児数

肢体不自由54名 病弱 11名

学部	通学生		訪問生		合計
	自宅生	センター生※	自宅生	センター生※	
幼稚部	1/1	0/0			1/1
小学部	9/20	2/4	1/1	1/1	13/26
中学部	5/9	1/2	1/1		7/12
高等部	6/18	3/4	3/3	1/1	13/26
合計	21/48	6/10	5/5	2/2	34/65

(令和3年度5月現在)

※鳥取県立総合療育センター入所生

○鳥取県内の特別支援学校・小中学校の指導的な役割を担う看護師・医療的ケア看護職員の配置数

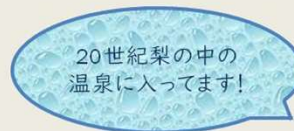
令和3年	特別支援学校				小・中 公立学校		計
	西部	中部	東部		西部		
地域	本校	A校	B校	C校	D校	E校	
指導的な役割を担う看護師	1人	1人	0人	2人	0人	0人	4人
医療的ケア看護職員	5人	3人	2人	7人	1人	1人	19人
計	6人	4人	2人	9人	1人	1人	23人

※医療的ケア看護職員の人数は予算積算上分の人数

10

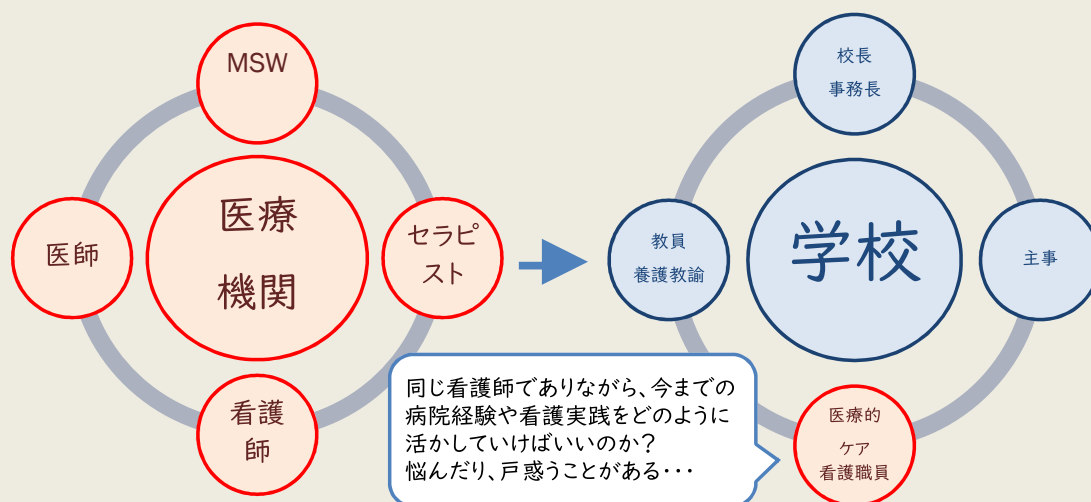
Ⅲ.実践報告

実践報告



11

○学校所属の立場から 看護師を取り巻く環境の変化



12

Ⅲ.実践報告

事例① ケアルームでの移乗は誰がする？



13

事例① ケアルームでの移乗は誰がする？

～指導的な役割を担う看護師1年目（H29年）の様子～

幼児
児童
生徒

移乗

【教員】

移乗は教員が自立活動として指導・支援し、応援が必要な場合は教員同士で調整しながら、体制を組んでいた。看護師は医療的ケアをまず優先して実施するため、移乗を一緒に行うことはほとんどない。

移乗

【医療的ケア看護職員】

基本的に医療的ケア以外のことは教員に任せている。看護師は医療的ケアを実施するための人員で、移乗については『教員がするものだ』という認識でいた。

14

事例① ケアルームでの移乗は誰がする？

指導的な役割を担う看護師のアプローチ

- ・現状の取り組みを洗い出し、支援方法を見直し、**改善**したい思いを双方に伝えた。
- ・自分たちの意識を変えていくことが、児童生徒にとって有効かつ重要であることを伝え、**移乗への参加**を促した。
- ・ボディメカニクスの視点で安全で安定した移乗が出来るように、腰痛や不安のある教員や医療的看護職員に対しては無理のない範囲で**ゆっくり進め、安全な移乗を実施した。**

15

事例① ケアルームでの移乗は誰がする？ ～現在の様子(5年目)～

【変化したこと】

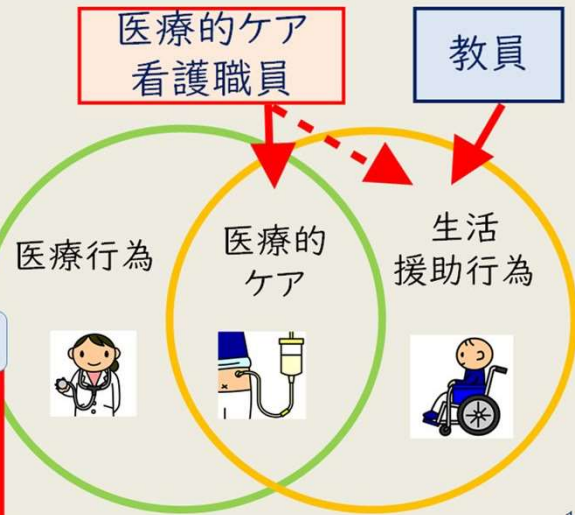
教員は自立活動を行いながら医療的ケア看護職員が移乗をサポートする体制を組めるようになった。
医療的ケア看護職員は医療的ケアだけでなく生活援助行為もかかわりの一環であることが理解できた。

【結果】

教員と看護師が声を掛け合い協働して移乗することが定着した
→協働しながらより効率的で質のよい支援に

こういう移乗の
ほうが安全では
ないですか？

無理せず
一緒にやりま
しょう！



16

Ⅲ.実践報告

事例② 連絡帳とケアノートの一体化への道



17

事例② 連絡帳とケアノートの一体化への道 現状と課題点

- ・保護者より『毎朝、2冊書くことが大変』という声があり。
- ・医療度により情報収集内容が増え、お互い把握しにくい。
- ・保護者より高等部卒後に向け、事業所等と在学中より情報共有しやすいノートを作りたいとの要望あり。



情報を一元化したノートが必要なので
一体化ノートを作ろう!!

18

事例② 一体化ノートの一例

ご家庭記入欄

- 2冊のノートを1冊にすることによって、家庭での様子が教員と医療的ケア看護職員との情報が一括でき、とてもわかりやすくなりました。
- ノート作成段階で、保護者、教員、医療的ケア看護職員の3者で観察項目やレイアウトの修正を行い、確認したい健康面・医療情報などを把握しやすくなったため、スムーズに一体化ノートへ移行ができました。

【 皆生養護学校 連絡ノート&ケアノート】 令和			
		注入時間	時 分~ 時 分
機嫌/緊張	良・普・悪	胃残	夜 朝
睡眠時間	~	注入調節	なし・あり()
熱/SpO2/P	/ /	皮膚発赤	左耳・右耳()
痰の量/色	少・中・多/半・白・他	排便1日総量	少・いつも通り・多
えずき	あり・なし	性状	水・泥・軟
:) 薬剤名		腹部	軟・普通・硬め
:) 薬剤名			

19

事例② 一体化ノートの一例 (教員や医療的ケア看護職員が記録するスペース)

縦線で経時的に見ることができ、特記事項も一覧できるように変更したため、対応しやすくなりました。

時間	1	2	3	4	5	6
学習の予定	整	自活		整		整
体温						
尿・便						
学習の様子						

医療的ケア実施時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00
吸引 (口)						
(鼻)						
性状						
量						
粘度						
色						
SpO2						
P						
過緊張						
点眼						
サイン						
内服薬 () 色						
皮膚						
腸音						
様子						

注入	注入内容・量	胃残	色	air	漏れ	内服薬 () 色	腸音	様子
実施	白湯	ml						
中止	P							
実施		mlを注入						

【明日の予定】
連絡・持ち物等

(家庭より) (ケアルームより)

20

事例② 一体化ノートを使用しての登校風景

ノートを通じて多職種連携がますます円滑に!

保護者

ケアルーム前での聞き取り風景

学校(教員)

学校(看護師)

放課後
デイサービス
現場実習先など

教室での聞き取り風景



21

Ⅲ.実践報告

事例③ 体温管理と学習時間の確保への道



22

事例③ 体温管理と学習時間の確保への道

【Aさんの現状】

- ・中枢性疾患の低体温症により冬期の著しい体温低下がある。
- ・主治医に学習可能な体温レベルを確認し、全身状態を見ながら体温管理をしている。
- ・活動可能にするための体温管理に時間を要する。
- ・より効果的な保温方法を担任・看護師・保護者と検討中
- ・保温管理中の学習参加方法が課題。

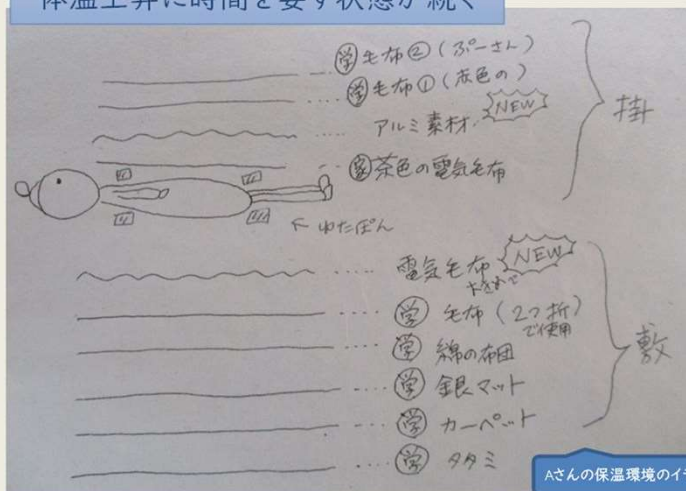


目標:Aさんの熱型を分析し、保温対策をしながら
学習可能な体温を保ち、参加時間を増やそう!!

23

事例③ 体温管理と学習時間の確保への道

R2冬期:保温環境を強化するも
体温上昇に時間を要す状態が続く



24

事例③ 体温管理と学習時間の確保への道

【Aさんの保温グッズの数々】

- ・電気毛布を敷いたり巻いたりして使用 (3枚使用中)
- ・アルミシート (R3.11月登場!)
- ・帽子
- ・コート
- ・ジェルタイプ湯たんぽ (レンジで数分加熱したものを使用)
- ・ヒーター
- ・マッサージ

このような工夫で
Aさんの周りには
いつもぽかぽか!

25

【Aさんの体温グラフから見えてきたこと】

- ・登校後の体温が一番低いこと
- ・医師の指示より34度以上を保ち、学習可能なレベルを保持することが必要
- ・低体温による心拍低下や呼吸抑制のリスク状態
- ・登校時の体温低下を予防できれば、保温時間が短くなるかもしれない

26

事例③ 冬期の朝の登校風景



天気によっては効果的な保温対策をしないと急激な体温低下を引き起こす為、熱を逃がしにくい工夫をして、短時間で室内に入る必要があります。



外はとっても寒いよ!!



温かいまま学校に行きたいな〜。

27

事例③ 体温管理と学習時間の確保への道

- ・登校時よりスムーズな移乗を実施すること、保温グッズを活用し体温維持への配慮を実施した。
- ・保温中も学習継続が可能となり、視線入力の学習に参加することができた。



28

Ⅲ.実践報告

実践報告を通して



29

○実践報告を通して

- 日々、密接に連携しあいながら児童生徒に関わっていく中で、お互いを理解しあうことが重要である。
- 指導的役割を担う看護師がつなぎ役となり、繰り返し、お互いの目標をどこにもっていくかを確認すること。
- 教育活動において教員と看護師がしっかり話しをしながら、『○○できない、○○したいのだけど、、、』を『○○ならできる、○○をまずやってみよう』など行動を変えてみることも大切。

30



本日は
ご清聴ありがとうございました!!

31

指導的な役割を担う看護師の 実践報告

②病院所属の立場から

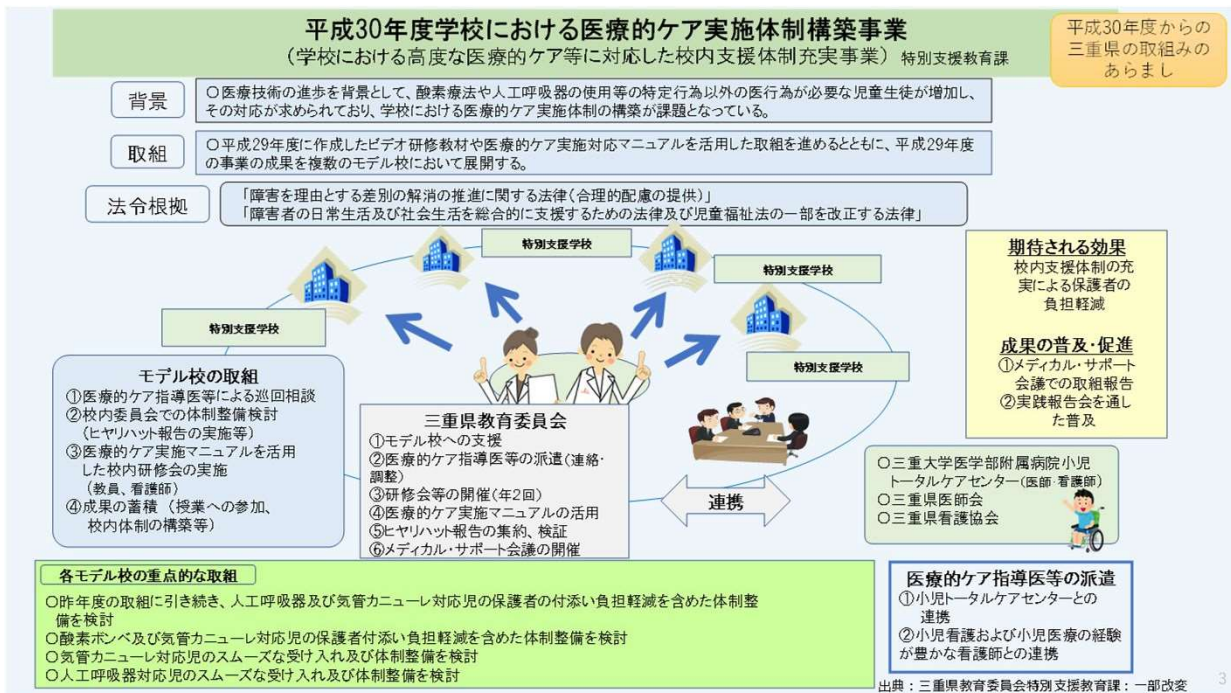
令和3年12月24日

三重県教育委員会特別支援教育課 医療的ケアアドバイザー
三重大学医学部附属病院 小児・AYAがんトータルケアセンター

目次

- I.平成30年度学校における医療的ケア実施体制構築事業
- II.三重県立特別支援学校の状況について
- III.特別支援学校での主な活動内容の具体
- IV.事例報告
 - ・事例1 口腔鼻腔吸引を気管分岐部近くまで挿入を希望する家族
 - ・事例2 人工肛門造設生徒の個別的な対応
 - ・事例3 特別支援学校卒業後の就業支援
- V.まとめ 私が考える指導的役割を担う看護師

I.平成30年度学校における医療的ケア実施体制構築事業



三重県教育委員会の取り組み

- ①モデル校への支援
- ②医療的ケア指導医等
(医療的ケアアドバイザー含)の派遣
- ③研修会の開催
- ④医療的ケア実施マニュアルの活用
- ⑤ヒヤリハット報告の集約・検証
- ⑥メディカルサポート会議の開催

モデル校の取り組み

- ①医療的ケア指導医等(医療的ケアアドバイザー含)による巡回相談
- ②校内委員会での体制整備の検討
- ③医療的ケア実施マニュアルを活用した校内研修会の実施
- ④成果の蓄積

医療的ケアアドバイザーの役割

- ①ケア実施場面の観察・助言
- ②緊急時対応訓練研修の講師及び訓練時の助言
- ③個別の緊急マニュアルへの助言
- ④各モデル校の課題達成に向けての支援

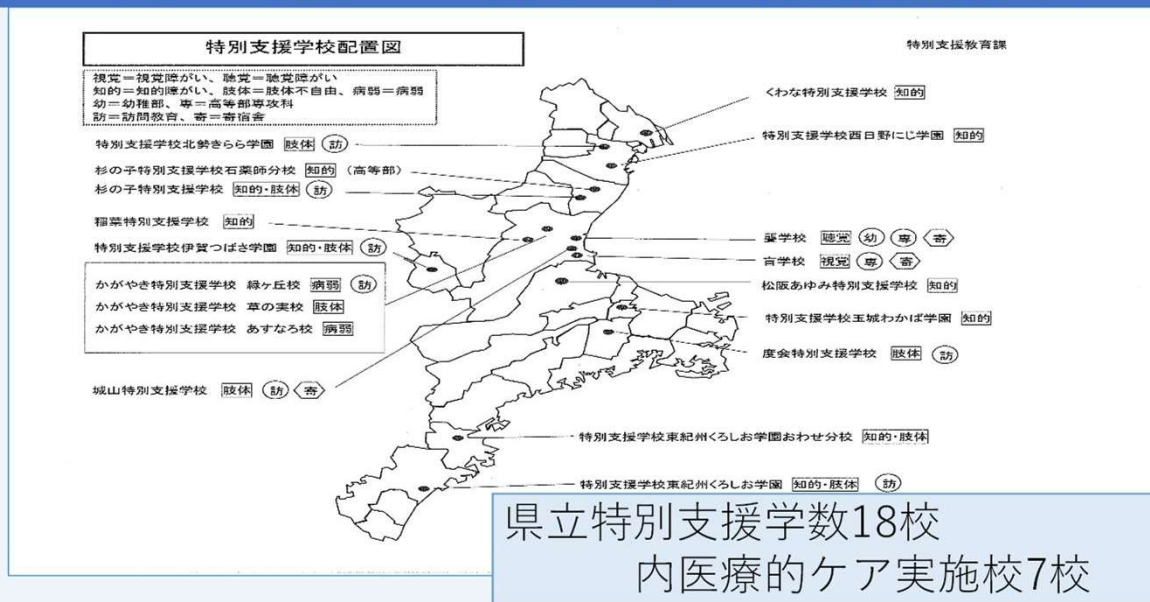
指導的な役割を担う看護師としての私の役割

4

II. 三重県立特別支援学校の状況について

5

令和3年度三重県内の県立特別支援学校



令和3年度三重県立特別支援学校における 医療的ケア実施状況

	合計
医療的ケア実施校数	7校
実施校児童生徒数	720人
内 医療的ケア対象児童数	74人
割合 (%)	10.3%
医療的ケア看護職員数	15人
医療的ケア担当実施教員※数	130人

医療的ケアアドバイザーとして、医療的ケア看護職員への指導助言だけでなく教員への指導助言も重要な役割となっている

※認定特定行為業務従事者であり、今年度医療的ケア児を担当している教員

令和3年度三重県立特別支援学校における医療的ケア実施項目

(重複した医療的ケアや熟練した看護師でないと行えないような高度な医療的ケアを受ける生徒も少なくない)

栄養			呼吸							排泄			その他			
経管栄養			口腔鼻腔内吸引		気管切開部			経鼻咽喉頭エアウェイ内吸引	ネブライザー等の薬液吸入	酸素療法	人工呼吸器の使用	排痰補助装置	導尿(自己導尿は除く)	人工肛門の管理	血糖測定(自己測定は除く)	インスリン注射等
★鼻腔胃管チューブから注入	★胃ろう	★腸ろう	★咽頭より手前まで	咽頭より奥の気道	★気管カニューレ内吸引	気管カニューレ奥から吸引	衛生管理									
8	46	1	39	16	19	9	15	2	7	5	2	1	5	3	4	2

★は、認定特定行為業務従事者の登録を受けた教員が実施できる医療的ケア

R3.5.1現在

8

医療的ケアアドバイザーとしての 特別支援学校での主な活動内容

- ①前回の訪問日以降の様子を情報収集し、医療的ケア児の状況把握
 - ②医療的ケア看護職員と行動を共にした業務確認
 - ③医療的ケア手技の確認と調整
 - ④教員の医療的ケアへの助言、指導
 - ⑤緊急時対応訓練と助言
 - ⑥緊急時対応マニュアル、および個別緊急時対応マニュアルの検討
 - ⑦学校として初めての受け入れに対しての体制構築と調整
(人工呼吸器・気管カニューレ)
 - ⑧研修企画・実施
 - ⑨校内委員会への参加 等々・・・
- ※各校への訪問頻度は月1回～学期1回程度

これまで学校勤務経験がなかったため、病院での経験を生かしてのスタートだった学校で行われている医療的ケアについて知ることが最初の一歩だった

9

Ⅲ.特別支援学校での主な活動内容の具体

10

特別支援学校での主な活動内容の具体 ①

①前回の訪問日以降の様子を情報収集し、医療的ケア児の状況把握

前回の訪問日以降の児童生徒たちの様子を情報収集するところから始まる。

個別性が高い生徒たちを理解するには時間を要する。

そのため、医療的ケア看護職員と行動を共にし、児童生徒の状況を確認する。

※各校への訪問頻度は月1回～学期1回程度

②医療的ケア看護職員と行動を共にした業務確認

医療的ケア看護職員に指導助言を行うためには、いかにアセスメントできるかが重要になる。

そのため多方面の情報をいかに収集するかを重要視している。

医療専門職の医療的ケア看護職員からだけでなく、いつもそばで見ている教員の意見も必ず聞き、必要に応じて医療的ケア看護職員と教員との調整を行う。

11

特別支援学校での主な活動内容の具体 ②

③医療的ケア手技の確認と調整

【学校における医療的ケア】

- ・一人一人実施方法等が異なる。
- ・重症度の高い児童生徒も増えている。
- ・医師不在の教育の場のため、医療的ケア看護職員は毎日実施している手技でも不安を持って実施している。
- ・児童生徒の状況変化により、医療的ケアの内容を検討する必要があるが出てくることしばしばある。

【大切にしていること】

- ・医療的ケア看護職員や教員の小さな疑問や思いにはしっかり耳を傾け、一緒に考える。
- ・医療的ケア看護職員と教員の間に入り、お互いに意見を言え、検討できるようにすることが重要である。
- ・医療専門用語をわかりやすく教員に伝えること等も必要になる。
- ・多職種で手技を確認検討することは各職種の視野が広がり、児童生徒の安全につながる上に、医療的ケア看護職員、教員の安心にもつながっている。
- ・検討した結果によっては必要な外部関係機関と学校をつなぐこともある。

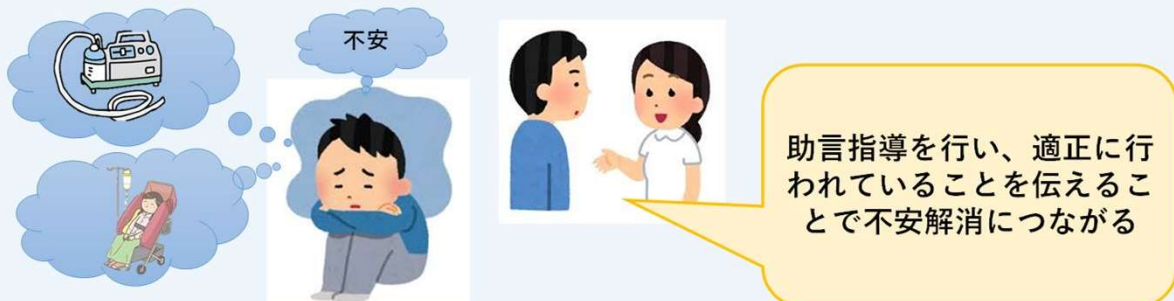
病院に所属していることがメリットに

12

特別支援学校での主な活動内容の具体 ③

④教員の医療的ケアへの助言、指導

教員は、認定特定行為業務従事者の登録を受け医療的ケアを行うが、医療職でないこともありさらに大きな不安を持って実施している。日々実施している手技が今の児童生徒に適しており、適正に行われていることを伝えることで、不安解消につながっている。



13

特別支援学校での主な活動内容の具体 ④

⑤緊急時対応マニュアル、および個別緊急時対応 マニュアルの検討

作成時 特に大切にしてきたのは役割分担

学校の医療的ケア看護職員の人数は限られているので、医療職でない教員にどのように役割分担し、共同できるかを焦点にして考える。

【例】処置を医療的ケア看護職員が行うため、その他の役割として、記録を教員が行うとき、何に焦点を当てて記録を残すのか、記録用紙は形を統一したものを作り、観察すべき項目をあらかじめ表示し書き込み式にし、各教室に設置した。

⑥緊急時対応訓練と助言

重症度の高い児童生徒も在籍しているので、緊急対応も必要となる。日頃から訓練を実施している。学校では、医療職は医療的ケア看護職員のみであることが多いのため、すべてを任せられてしまうこともある。その時どう対応するのか、全職員での対応として検討。

14

特別支援学校での主な活動内容の具体 ⑤

⑦学校として初めての受け入れに対しての体制構築 と調整（人工呼吸器・気管カニューレ）

医療的ケアを必要とする児童生徒の就学時には、学校の体制を作り上げることに加わる。各学校が初めての医療的ケア項目を受け入れる時は就学に向けての準備にも加わり、環境整備や付き添いの解除迄の計画立案、災害対策も検討。

就学にあたり、早くから学校と訪問看護との関係性をつなぎ、情報提供を受ける。医療職同士の情報交換はより安心感が持てる。

⑧研修の企画・実施

学校単位で研修を依頼されることもある。同じ内容でも職種により内容を変え、分かりやすくする工夫している。職種別で知りたい内容も違い、その要望に応えるようにしている。

⑨校内委員会への参加

校内委員会では、ヒヤリハット報告の共有等も行われるため、予防策の提案なども行う。

職種間の理解度を埋めることが最も大切。

15

IV.事例報告

事例1 口腔鼻腔吸引を気管分岐部近くまで挿入を希望する家族

16

実施事例 1-1)

学校での口腔鼻腔吸引を気管分岐部近くまで挿入を希望する家族

【生徒の状況】

長期入院後 高等部に転校
医師からは気管切開を進められているが、家族は受け入れられない
咳嗽反射あるが弱い 痰は多い 緊張も強い

【母の思い】

口腔鼻腔から気管分岐部近くまでチューブを挿入し、しっかり痰を吸引してほしい。私ができているから看護師にはできるはず
吸引できなければ肺炎になってしまう

17

実施事例 1-2)

【医療的ケア看護職員・教員の思い】

- ・ 医師のいない学校での無理な吸引はリスクが高く避けたい
- ・ 教員は実施できないが、見ているだけでも怖い

【医療的ケアアドバイザーとしての助言】

- ・ 主治医の指示を再確認し、気管分岐部までの吸引を実施するよう指示があった場合、主治医から手技の指導を受けること
- ・ 緊急時の受け入れ病院として依頼すること
- ・ 家族には気管分岐部までの吸引リスクを整理して伝えること
- ・ 実施しない指示の場合は、それに代わるケアを実施する必要がある
ので、家族、主治医と検討する
- ・ 吸引方法を変更後の生徒の様子を家族と情報共有すること

18

実施事例 1-3)

【結果】

- ・ 主治医と母の認識の違い、医療的ケア看護職員、教員、母の思いを
しっかり聞き共通理解することで、統一することができた
- ・ リスクを伴うケアを必要とする場合もある。その時は実施する医療
的ケア看護職員の責任で行うものではなく、学校として実施してい
くかどうか組織で考える必要があると理解を得ることができた

19

IV.事例報告

事例2 人工肛門造設生徒の個別的な対応

20

実施事例 2-1)

人工肛門造設生徒の個別的な対応

【生徒の状況】

- 人工肛門を造設している 腸炎を繰り返している
- 入退院も繰り返している 血便も頻回

【医療的ケア看護職員の要望】

- ストーマの排泄物の処理は医行為ではないので、教員が行ってほしい
- 他校のストーマの排泄処理は教員が実施している

【教員の思い】

- 出血が頻回にあるため、処理時が怖い
- 私たちが実施して大丈夫か

21

実施事例 2-2)

【医療的ケアアドバイザーとしての対応】

- ・あくまでも安定していることが前提。ストーマからの排便物の処理は確かに医行為ではないことは発表されている

ケアの内容だけで決めるのではなく、一人の生徒を見て判断した

- ・医療的ケア看護職員と教員の思いをそれぞれに聞く

当該学校では医療専門職は医療的ケア看護職員のみで、医療に関する判断はほぼ医療的ケア看護職員が行っており、教員は意見を言えない状況になることがある。しっかり話を聞いた後判断し、学校内委員会へ進める

22

IV.事例報告

事例3 特別支援学校卒業後の就業支援

23

実施事例 3-1)

特別支援学校卒業後の就業支援

【生徒の状況】

- 高等部3年生、知的障がいがあり、Ⅰ型糖尿病、
- 血糖値が安定せず、低血糖時に症状が現れにくい
- 登校時・昼食前・下校時に血糖測定を医療的ケア看護職員が行っている
- 昼食前に、血糖値を見てインスリン注射を医療的ケア看護職員が実施
- 自己管理はできない
- 就業に向けて学校が調整中

24

実施事例 3-2)

【母の希望】

- 就職先には看護師がいて、血糖の管理とインスリン注射を実施してほしい
- 母は就業しているので、就職先への送迎はできない。徒歩で通勤できる場所を希望

【就職調整状況】

- 看護師が常駐する就職先がない
- 家族が生徒の勤務先に出向くことはできない
- 自分一人で通勤できる場所は限られる

25

実施事例 3 - 3)

【医療的ケアアドバイザーとしての対応】

- 生徒にかかわっている地域支援者と連携を取り情報収集をすること
- 学校だけで解決しようとし、地域支援者会議を開催を打診
- 主治医への相談
- 学校での医療的ケアの方法にとらわれないこと

新たな学校外の
支援者をつなぐ

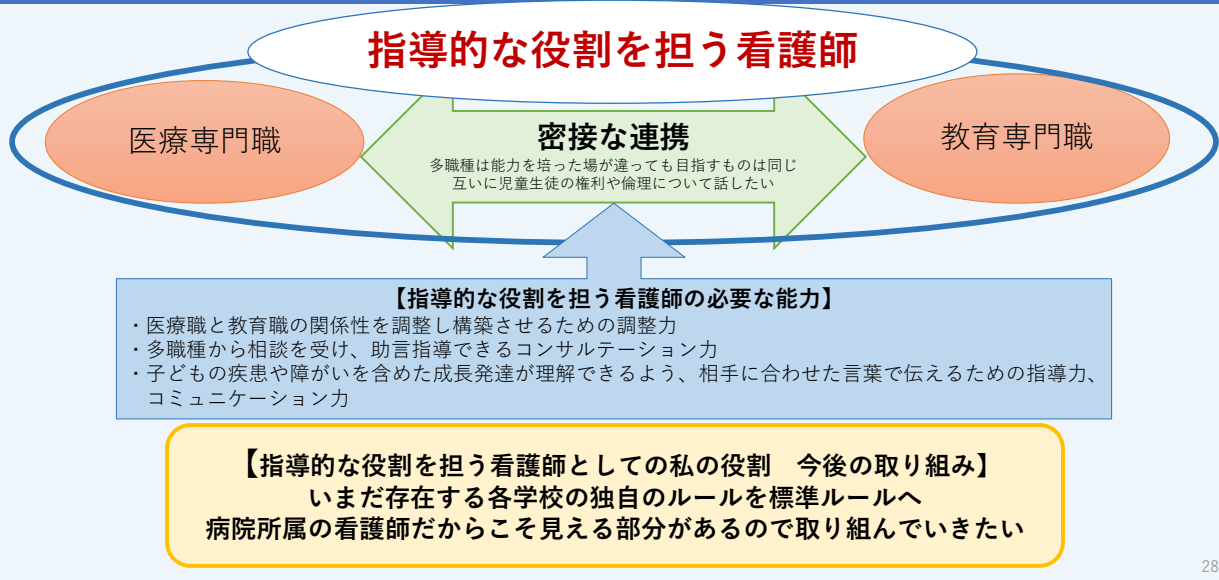
就学する時に医療的ケアを学校の生活リズムに合わせて調整しているのと同じように、次のステージへの調整を新たにすることがある

26

V. 私が考える指導的役割を担う看護師 まとめ

27

私が考える指導的役割を担う看護師 まとめ



指導的な役割を担う看護師の 実践報告

③教育委員会所属の立場から

令和3年12月24日
神奈川県教育委員会
特別支援教育課

目次

I.神奈川県立特別支援学校の現状

II.神奈川県特別支援教育課看護師長の役割と業務内容

- ・ 役割と業務内容
- ・ 業務内容1（学校に関すること）
- ・ 業務内容2（医療的ケア看護職員への研修に関すること）

III.令和3年度 小児看護ステップアップ研修

IV.指導的な役割を担う看護師として

I .神奈川県立特別支援学校の現状

2

神奈川県立特別支援学校の現状

- 医療的ケア実施校：18校（1校については病院内に設置）
- 医療的ケア実施 児童生徒数：253名（令和3年7月末時点）
- 医療的ケア看護職員配置数：57名（病院内の学校は除く17校に配置）
- 特別支援教育課に看護師長1名、
非常勤看護師1名（主に学校派遣業務）配置。



3

Ⅱ.神奈川県特別支援教育課看護師長の役割と業務内容

役割と業務内容

4

神奈川県特別支援教育課 看護師長の役割と業務内容

1. 医療的ケア看護職員の医療的ケアの業務に関する統括及び相談指導に関すること
2. 巡回診療時における、医療的ケアに関する状況の把握、担当医、医療的ケア看護職員の連絡調整に関すること
3. 医療的ケア看護職員を対象に実施する研修に関すること
4. 小学校、中学校、高等学校及び学校からの医療的ケアに関する相談指導に関すること
5. 医療的ケア看護職員等が不在時の場合における担当医の指示に基づいた医療的ケアの実施に関すること
6. 医療的ケアを担当する教員に実施する研修等に関すること
7. 学校における医療的ケアの円滑な運営を図る会議に出席に関すること

5

Ⅱ. 神奈川県特別支援教育課看護師長の役割と業務内容

業務内容1（学校に関すること）

6

業務内容 1（学校に関すること）

1）巡回診療型診療所方式

- ・ 毎月 1 回実施される巡回診療の場に同席し、各校の医療的ケアの実施状況等を把握し**課題を共有**する。
- ・ **情報提供や助言等**を行う。

2）医療的ケア看護職員不在時の応援

- ・ **医療的ケアの実施**
- ・ 医療的ケア看護職員、教員からの**相談**
- ・ 新任の医療的ケア看護職員の**フォローアップ**

7

Ⅱ.神奈川県特別支援教育課看護師長の役割と業務内容

業務内容2（医療的ケア看護職員への研修に関すること）

8

業務内容 2

（医療的ケア看護職員への研修に関すること）

1) 新任看護師研修

- ・ 4月入職時に実施（中途採用者は、その都度実施）
- ・ 学校配属後、1～2カ月後を目途に学校に出向きフォローアップ

研修内容

- 医療的ケアの歴史
- 神奈川県の制度
- 医療的ケア看護職員の1日
- 学校での医療的ケア看護職員の役割
- 学校における協働・連携について
- 医療的ケア看護職員として



9

業務内容 2

(医療的ケア看護職員への研修に関すること)

2) 小児看護ステップアップ研修

実施時期：夏季休業中

対象：医療的ケア看護職員

期間：3日間（90分1コマの講義を9コマ）

・毎年、医療的ケア看護職員より受講したい内容についてアンケートを実施

アンケート結果

前年度の研修で
得られた感想等

実際に学校訪問で
感じているニーズ

総合的に踏まえ、研修内容を企画・運営



10

Ⅲ.令和3年度 小児看護ステップアップ研修

11

小児看護ステップアップ研修

令和3年度研修内容

【講座1】 姿勢とポジショニング	【講座4】 胃ろうの管理	【講座7】 今後の医療的ケアと 医療的ケア看護職員 の役割
【講座2・3】 小児の呼吸管理と 気管カニューレ抜去時 の対応	【講座5・6】 学ぼう・高めよう コミュニケーション 能力	【講座8・9】 小児の人工呼吸器の 基礎

12

令和3年度 小児看護ステップアップ研修 コミュニケーション研修から

○研修希望のアンケート

コミュニケーション内容希望・・・2件

学校に行くと・・・つぶやきが

保護者との
連携・協力



看護師間の
意見の相違

教員・看護師
の協働・連携

- ・日々の教員・医療的ケア看護職員とのやりとりでのつまづき・悩み・不安
- ・多様化する医療的ケアの対応の難しさ



コミュニケーション研修の必要性

13

令和3年度 小児看護ステップアップ研修 コミュニケーション研修から

講座5. 6「学ぼう・高めよう・コミュニケーション能力」

コミュニケーション研修を受講するにあたって

事前アンケート実施

内容

- ①コミュニケーションでうまくいっていること
- ②コミュニケーションでうまくいっていないと感じること、悩んでいること
- ③今回の研修「学ぼう・高めよう・コミュニケーション能力」で学びたいこと、知りたいこと

※講師の先生とアンケート結果に基づき、講義内容についてご相談、依頼

14

令和3年度 小児看護ステップアップ研修 コミュニケーション研修から

講座5. 6「学ぼう・高めよう・コミュニケーション能力」

主な講義内容

- コミュニケーションとは何か
- 仕事における価値観の探求
- 傾聴、承認、アサーショントレーニング等



15

令和3年度 小児看護ステップアップ研修 コミュニケーション研修から

講座5. 6「学ぼう・高めよう・コミュニケーション能力」

研修後の感想

- ・ うまくいかずに悩んでいたことに対して、ヒントをたくさんいただくことができた。
- ・ 「相手の反応が自分のコミュニケーションの成果・結果である」という言葉が心に残った。
- ・ 職場でも家庭でも「自分は伝えたから、相手が悪い」と思うことを改めたい。
- ・ 自分の価値観を大切にすることは、相手の価値観に対しても同様である。
- ・ 仕事に対する自分の価値観について、「自分自身が何を大切にしているか」はっきりとした。
- ・ 同僚の価値観についても知りたいと思った。

16

令和3年度 小児看護ステップアップ研修 コミュニケーション研修から

- ◆ 「学校で働く」ということ
異なる専門性を持つ職種との協働・連携
⇒ 「コミュニケーション研修等の必要性」
- ◆ 医療的ケア看護職員としての価値観を育てる
児童・生徒の学校生活を支えるチームの一員
⇒ 「医療的ケア看護職員の役割を明確化」

17

IV.指導的な役割を担う看護師として

18

指導的な役割を担う看護師として

- 「医療的ケアが必要な児童・生徒」を中心においた
専門職同士の価値観の共有と相互理解に努めること
- 教育を受ける子どもの
最善の利益が守られているかという人権意識を持つこと
- 医療的ケア看護職員が日頃の悩み、不安等を話すことができるなど、
気持ちを伝えあえる関係づくりに努めること
- 児童・生徒を中心にした
情報の整理や課題に対する助言をすること

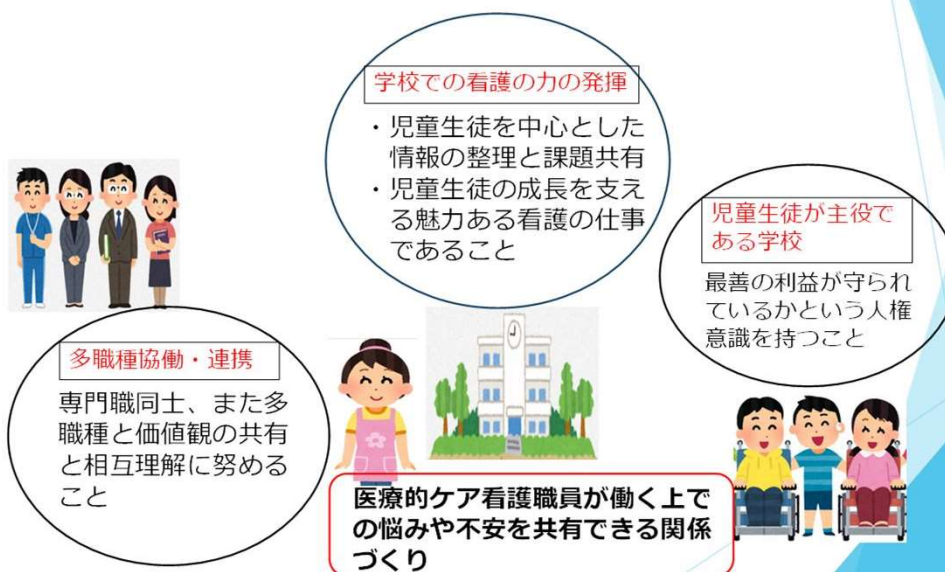
19

指導的な役割を担う看護師として

- 学校という場で働く医療的ケア看護職員が
多職種とチームの一員として看護の力を発揮できること
- 児童・生徒の学校生活を支えるチームの一員として
魅力ある看護の仕事であることを伝えていくこと

20

指導的な役割を担う看護師として



21

令和3年度 文部科学省委託事業
学校における医療的ケア実施体制充実事業
(医療的ケアのための看護師に対する研修機会の確保)
指導的な役割を担う看護師の研修プログラム案と教材例

令和4(2022)年3月
発行・編集 公益財団法人 日本訪問看護財団
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2
日本看護協会ビル5階
TEL.03-5778-7001 FAX.03-5778-7009
<https://www.jvnf.or.jp>

